

図書館へ行こう！

栄養学科教授

鹿内 彩子

シカナイ

サイコ

本表紙に、『ラポール』は、人間同士（学生&教職員&地域住民&県民）のつながりを意味します」とあります。また、「ラポール」という言葉は、私の担当する栄養教育においても、対象者に寄り添い安心して食生活の課題について話してもらえるよう信頼を得る、相互信頼の構築を学生の皆さんに説明する言葉でもあり、親しみを感じるタイトルです。そこから、私の本とのつながり、本に楽しみや安らぎ、心の充足を求めて図書館に通っていたのはいつ頃からだったかな？と思い返してみました。小学生の頃には学校の図書室の棚にある本を全部読みたいと放課後には足しげく図書室に通い、友達の家遊びに行っても知らない本がある本棚の前に行く夢中になって本を読ませてもらうような本を読むことが大好きな子供でした。それ以来、中学、高校時代と、勉強のためというよりは、宇宙や世界の不思議を想像し、恐竜やその恐竜が繁栄した時代に思いを巡らせ、遠い国の人々の生活や自然の景色が載った写真集を眺め、古今東西の名作に心を打たれ、なかなか購入できずにいた読みたい本たちに会える楽しみ…そんなワクワク感、本と親密な雰囲気になれる図書館に通い読書を楽しんでいたんだと思い出しました。ですが、いつのころからか、図書館は仕事に関連する図書や雑誌を必要な時に探す場になっていました。もしかすると、私の生活は殺伐としているのでは？！ということに気が付かされました。皆さんはどうでしょうか？大学生として図書館の様々な機能やたくさんの資料を活用して勉強に励むことはもちろんとても大切なことですが、体を元気にするためにおいしい食べ物を楽しんで食べるように、本から心に栄養を注入し、心を元気にして「学びたい！」と思う状態に整えることも大切ですね。春です。新しい本との出会い、心からのワクワクを求めて、図書館に行こう！

